

考にしていただければと思います。

## 言語活動と紐付けた指導

先ほどより述べているように、はじめに受容語彙として提示された語の中には、発信語彙まで育てなければならない語が存在します。そのためには、その語の意味を頭の中で出し入れするだけでは不十分で、実際に「自分で使ってみる」という自己表現活動が必要になります。28NCでも、Practiceでは、Listen – Speak – Writeと順を追い、最後は自分のこととして表現するというステップを踏んでいきますし、USE Write, Speak等では、自分自身のことを書いたり話したりする活動を課しています。語彙は語彙、言語活動は言語活動と分けて考えずに、言語活動の中で生徒の語彙を育てていく指導をされてはいかがでしょうか。

### 参考文献

文部科学省(2018).『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』開隆堂

らです。ただ、学習の順序として、「一般的に、学習語彙は導入時には受容語彙としてまず提示され、その一部が段階を経て発信語彙として習得されていく」ということを踏まえると、語の導入時に、最終的に発信語彙に発展する語なのか、それとも受容語彙のままの可能性が高い語なのかを意識して指導していくことは大変大切です。例えば、フラッシュカードを用いた学習で、受容語彙なら英語のつづり字を見て発音・日本語の意味を確認するところまで、発信語彙まで持っていきたい語ならそれに加えて、日本語から英語を引き出せるようになるまでトレーニングをします。また、音読の際にも、受容語彙で構成された英文であれば、教師が読むのを聞いて意味が分かるかを問い、発信語彙を含む英文であれば、ディクテーションなどでつづり字を確認するところまで指導を行うなど、最終的に達成させたい語彙の習得レベルに合わせて、指導方法の工夫ができるとういでしょう。

また、発信語彙まで持っていきたい語の目安として、28NCでは、Words欄や「単語の意味」で、太字・細字を使ってわかりやすく示しています。生徒の興味・関心とあわせて、各語の一般的な優先度を調べる際に、ご参

SSD 三省堂

三省堂 教科書・教材サイト <https://tb.sanseido.co.jp/>

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 TEL 03(3230)9411(編集)・9412(営業)

■大阪支社	〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3	TEL 06 (6341) 2177
■名古屋支社	〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31協和丸の内ビル2F	TEL 052 (953) 9211
■九州支社	〒810-0012 福岡市中央区白金1-3-1	TEL 092 (531) 1531・1532
■札幌営業所	〒060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1ラスコム15ビル3F	TEL 011 (616) 8722

No.1 英語教育改革 —Now and Then— 根岸 雅史

No.2 思考力・判断力・表現力 松沢 伸二

No.3 主体的・対話的で深い学び 竹内 理

No.4 新学習指導要領施行に向けた授業改善 日臺 滋之

No.5 小中高の連携 今井 裕之



# 新学習指導要領施行に向けた授業改善

日基 滋之 (玉川大学)



新しい学習指導要領の施行が迫る今、そのキーワードである「英語で授業」と「語彙(言語材料の増加)」について、授業改善の観点から、ポイントをお伝えしたいと思います。現職の先生方の、毎日の授業にお役立ていただければ幸いです。

## 英語で授業

中学校学習指導要領解説外国語編において、「授業は英語で行うことを基本とする」という言葉は合計4度使用されており、その意味合いや背景は、次のようにまとめられます。

- 生徒が授業の中で「英語に触れる機会」を最大限に確保すること、授業全体を英語を使った「実際のコミュニケーションの場面」とすることをねらいとしている。
- 「授業は英語で行うことを基本とする」とは、生徒が日常生活において英語に触れる機会が非常に限られていることを踏まえ、英語による言語活動を行うことを授業の中心に据えることを意味する。

これについては、我々の誰も異を唱えることはなく、「なるほどその通り」とうなずける内容です。では、この「授業は英語で行うことを基本とする」をいかにして、具現化できるでしょうか。

## 新語の導入を英語で行う

まず、「新語の導入を英語で行う」という方法を紹介します。具体的には、**実物を提示**しながら、“What is this? This is a wallet. Do you have a wallet?”などのように声かけをします。生徒は、当然実物を見ればそれが財布だということはわかりますから、walletは財布であると推測することができます。実物の提示が難しい語の場合、**写真やイラスト**を使ってもよいでしょう。

または、**例を複数挙げながら**推測させることもできます。singerという語を導入したい場合、“Madonna is a pop singer. Do you know her? Amuro Namie is also a pop singer.”のように情報を与え、具体的な人名の共通点から、singerとは歌手のことを指していると推測させる方法です。ほかにも、**英英辞典から定義を引用**して見出し語を推測させたり、あるいは、**動作をジェスチャーで示したり**する方法も有効です。新語を扱わない授業はありませんから、ここを英語にすることで、授業中の英語使用の割合はぐっと増え、「英語で授業」を具現化する一助となるはずで、和訳は最後の手段としたいものです。

## Teacher Talkを英語で行う

私は普段、教職課程にある学生を指導する際に、「プリントを配布する際でも、黙って配るな」とよく言います。“How many sheets do you need?”と言いながら配るだけで、教師と生徒が英語でやり取りする場面を増やすことができます。同様に、単語テストの際も、“Please put your word book under your desk.” “You have three minutes for the word test as usual.” “Do you all have test sheets?” のように声をかけます。普段日本語で伝えている内容を英語にして織り交ぜるだけで、飛躍的に授業を**実際のコミュニケーションの場**にすることができます。普段、日本語で指示を出されている先生方もいらっしやと思います。Teacher Talkを**コミュニケーションの手段**と捉え、この機会に見直してみたいかでしょうか。平成28年度版NEW CROWN (以下28NC) Book 1 pp. 18-19「教室で使う英語【Classroom English】」にも教室内で役立つ表現をたくさん掲載していますので、今一度ご覧いただければと思います。

## 語彙(言語材料の増加)

言語材料については、新しい小中高の枠組みの中で大きな変化が起きています。例えば、小学校で「夏休みの思い出」を語るときに、“I went to Niigata. I saw beautiful fireworks. It was great. I want to go to Niigata again.”のように発話する児童もいるでしょうが、これは現行の指導要領の枠組みでは中2レベルの文法事項を駆使している

ことになります。同様に、これまでは高校の領域だった仮定法や現在完了進行形のような文法事項を中学校で扱うことも新学習指導要領では語られています。これらは文法事項についての変化ですが、語彙についても、中学での指導数が**1600~1800語**に増える大きな変更がありました。語彙には、それぞれつづり・発音・語法や、その語に紐づく上位語・下位語との関連もあります(例：basketball, baseballは、それぞれsportの下位語)。中学での新出語1600~1800語に小学校で学習した600~700語を足した2200~2500語を、一度にマスターすることは当然できませんので、相当な準備・計画性をもって扱わなければなりません。その際、2200~2500語を一律に扱うのではなく、**受容語彙・発信語彙**という考え方に基いて、指導の軽重をつけることが重要になってきます。受容語彙とは、「生徒の発達段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して、意味を理解できるように指導すべき語彙」、発信語彙とは「話したり書いたりして表現できるように指導すべき語彙」であり、**すべての語を発信できるようにすることは求められていない**ということをまず確認しておきたいと思います。

## 受容語彙・発信語彙の意識

「受容語彙・発信語彙を意識して指導する」と言うと、まるで全ての語がどちらに属するか予め決まっているように思われる先生方もいらっしゃるかもしれませんが、そうではないのがこの議論が難しいポイントです。なぜなら、生徒の興味・関心によって、話したり書いたりするのに必要な語(発信語彙)は異なるか